

かぼちゃ・・・I

担当者 技能研究員 深海健太郎

試験課題名	品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。
連携機関	上川農業改良普及センター土別支所、JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

1 供試品種・資材

品種

※ えびす(タキイ) こふき(ナント) くりゆたか (みかど協和)
くりゆたか7(みかど協和) くり将軍(トキタ種苗) ほっとけくりたん(渡辺採種)

※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム (サンブラック工業株式会社)

2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 5月31日 定 植 日 ～ 6月16日 収 穫 日 ～ 9月13日

整枝方法 ～ 子蔓2本仕立て 5節目まで整枝・摘花 (ほっとけくりたんは親づる無摘芯)

栽植密度 ～ 畦幅4m×株間0.75m 333株/10a 試験区面積 4m×3.75m 2反復

※ほっとけ栗たん 畦間4m×株間0.5m 500株/10a

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	MgO	CaO	熱水抽出N
5.92	0.058	58.5	37.1	41.1	453.3	6.3

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル ～ 102kg 堆 肥 ～ 2,000kg

(3) 施肥内容 (成分量%)

基 肥 ～ 硫酸アンモニア (21-0-0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 粒状過燐酸石灰 (0-18-0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 硫 酸 加 里 (0-0-50) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア 14.2kg	3	-	-
基 肥	粒状過燐酸石灰 26.3kg	-	5	-
基 肥	硫 酸 加 里 10kg	-	-	5
合 計		3	5	5

4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・初期生育

雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査 ～ 果形・果皮色・肉厚・果肉色

収 量 調 査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

食 味 調 査 ～ 粉質程度・甘味・食味・乾物率

貯 蔵 調 査 ～ 糖度 (Brix) ・腐敗率

5 生育調査

項目	品種	えびす	こふき	くりゆたか	くりゆたか7	くり将軍	ほっとけくりたん
播種日		5月31日					
発芽期		6月8日	6月10日	6月9日	6月7日	6月7日	6月8日
発芽率(%)		98	100	100	100	100	98
定植日		6月16日					
定植時の苗質	最大葉長(cm)	2.45	1.58	2.39	2.79	2.68	1.79
	葉数(枚)	1	1	1	1	1	1
初期生育 播種後45日	つる長(cm)	149.8	142.8	92.8	106.5	105.9	123.9
	葉数(枚)	10.9	10.7	8	9.4	9.5	8
	草勢	3	3	3	3	4	3
	うどんこ(無0~4塘)	0	0	0	0	0	1
雌花開花期		7月24日	7月26日	7月27日	7月27日	7月27日	7月24日
着果期		7月25日	7月27日	7月28日	7月28日	7月28日	7月25日
第一果 着果節位(節)		9.2	8.5	8.6	9	9.3	7.1
9月14日	つる長(cm)	303.8	385.0	277.8	371.2	449	471
収穫日		9月13日					
成熟日数		51	49	48	48	48	51

6 果実特性・収量調査

項目	品種	えびす	こふき	くりゆたか	くりゆたか7	くり将軍	ほっとけくりたん
果形		扁平	扁平	扁円	扁平	扁平	紡錘
果皮色		緑	緑	濃緑	濃緑	濃緑	緑
肉厚	赤道部(cm)	27.7	28.3	26.3	30	27.7	35.4
	花痕部(cm)	23.5	18	23.6	19.8	16.0	36.0
果肉色(濃5~1淡)		3	1	2	4	3	2
10a当たり収量(kg)		1,275	1,691	1,066	1,459	1,458	1,824
収量比(%)		100	132	83	114	114	95
1株当たり平均個数		1.7	1.8	1.6	1.9	1.8	1.28
平均一果重(kg)		2.25	2.82	2	2.3	2.43	2.85
規格別割合(%)	良果	76.4	94.5	94.2	84.2	100	70.6
	不良果	23.6	5.5	5.8	15.8	0	29.4
良果割合(kg/10a)		969	1,589	1,002	1,225	1,458	1,276
規格別割合(%)	4玉	41.1	89.5	12.5	15.8	38.9	77.8
	5玉	23.5	5.3	43.7	73.7	44.4	5.6
	6玉	23.5	5.3	31.3	10.5	16.7	10.4
	7玉	5.9		12.5			5.6
	8玉	5.9					
	9玉						

7 食味・貯蔵調査

項目	品種	えびす	こふき	くりゆたか	くりゆたか7	くり将軍	ほっとけくりたん
10月8日	甘味(強5~1弱)	3	3.1	2.5	3.4	3.2	3.8
	粉質程度(強5~1弱)	3	3.8	3.2	3.9	4.3	3.8
	食味(良5~1不良)	3	3.5	2.6	4	3.6	3.9
	乾物率(%)	22.2	23.4	30	24.4	26.9	20.8
	糖度(Brix)	10.8	11.7	9.8	13.5	11.9	12.4
12月13日	甘味(強5~1弱)	3	3.3	2.7	3.1	3.6	3.2
	粉質程度(強5~1弱)	3	2.5	3.3	3.3	3.8	2.8
	食味(良5~1不良)	3	2.9	2.7	3.3	3.7	3.1
	乾物率(%)	18.5	19.5	22.7	22.2	28.0	19.1
	糖度(Brix)	11.8	10.8	9.3	10.5	16.1	12.3
	腐敗率(%)	37.5	30	50	70	21	60

8 防除歴

殺虫剤	殺菌剤
	7月21日 ストロビーF 500倍
	7月25日 クラムス水和硫黄剤 1000倍
	8月2日 ダコニール1000 1000倍
8月9日 モスピラン水和剤 8000倍	8月9日 クラムス水和硫黄剤 1000倍

9 試験結果概要

(1) 生育経過

72穴セル成型トレーにポットエースを使用して、5月31日に播種を行った。発芽は6月の7日から10日までに確認できた。

定植は6月16日に葉数が全て1枚の状態で植え、その後はすぐに活着した。

初期生育の段階から例年よりもつるの伸びがとて短く、葉が小さくまとまってしまったことが影響し、着果期には日焼け果が目立つ品種が多くなった。その後もつるの伸びは回復せず、9月の段階で5mに届かないものが多くなる等かなり悪くなった。

雌花の開花時期は7月24日からとなった。

(2) 果実特性・収量調査結果

1株当たりの平均着果数は最も多い品種でくりゆたか7が1.9個、こふき・くりゆたかが1.8個となった。つるが伸び悩み、雌花の数が少なかったため結果的に着果数がとても少なくなった。

平均1果重はほっとけくりたんの2.85kgやこふきの2.82kgと平年並みになっている。ほっとけくりたんは、株間が通常品種よりも短い50cmのため株数が多く、収量が増加した。

良果割合はくり将軍が100%、こふきが94.5%と高くなっている。良果割合を加味して計算した良果収量は、こふき 1,589kg > くり将軍 1,458kg > ほっとけくりたん 1,276kg > くりゆたか7 1,225kg > くりゆたか 1,002kg > えびす 969kg となった。

(3) 食味・貯蔵試験結果

10月8日に1回目の食味試験を行った結果、基準のえびすは低評価であった。こふきも、食味は良いが粘質気味であると評価された。その中でくりゆたか7、くり将軍、ほっとけくりたんは食味も良く、栗系の特徴である粉質も表れて評価が良かった。しかし、くり将軍は粉質が強すぎて食べるには早い。という意見もあった。

12月13日の食味試験では、他の品種を抑えてくり将軍が食味関係や乾物率、腐敗率、糖度の全ての項目で高い数値になっている。

貯蔵試験は風乾後、農協倉庫で保管・貯蔵した。12月9日に取り出し腐敗率を確認したところ、くりゆたか7とほっとけくりたん、くりゆたかの3品種が50%以上腐敗していた。

それぞれの品種を乾燥させ乾物率を調べた結果、くり将軍を除いた5品種の乾物率は10月から12月を比べると下がっていた。くり将軍の乾物率は10月と12月の両方で最も高く、10月が26.9%、12月が28.0%となった。

糖度は10月と12月で高い品種が違っている。10月の時点ではくりゆたか7が13.5度、ほっとけくりたんが12.4度、くり将軍が11.9度になった。12月にはくり将軍が最も高くなり、16.1度になった。

(4) 考察

今年度は干ばつや9月の台風の影響で、かぼちゃの生育がとて悪い年になった。定植後から天候が悪かったため草勢が悪くなり、それが着果数に響き収量の減少に繋がった。加えて葉が小さかったことによる日焼け果の増加が、良果割合を落とす要因になった。また、収穫直前の9月に台風12号による冠水のため果実が水に浸かり、腐敗果の増加に繋がったようである。

以上の影響が最も表れたのが基準のえびすである。和寒町で最も作付されている品種なので、来年以降えびすがしっかりと生育・食味における軸になれるようなデータを取れるように生育管理をしたい。

今回のデータから、10月の時期はえびすやくりゆたか7を、遅い時期からは保存が効き食味も良いくり将軍とを和寒町で作分け、秋から冬至まで美味しいかぼちゃを出荷し続けられるような体系を確立する足がかりになれば良いのではないかと思う。